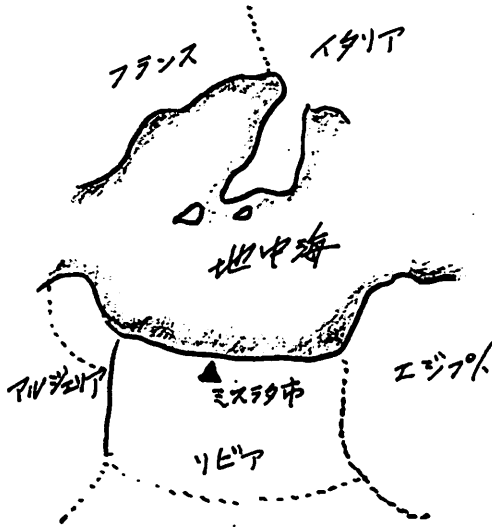


## リビアからの虫便り

会員の伊藤時雄氏はリビアに会社から派遣されて技術指導をしておられます。3月9日に現地より次の様な虫便りを頂いたので此処に紹介させていただきます。



伊藤時雄氏の手紙による略図による。

突然海外より手紙が届いて驚かされている事と存じます。お許し下さい。さて私は兵庫昆虫同好会のメンバーの1人で、須磨、横尾にいる伊藤と申します。でも現在は1989・9よりこの土地 リビアに会社より派遣されて技術指導を行っています。仕事自身はそんなに忙しくはないものですから、毎週の金曜日(アラブ圏では Friday が holiday です)にそこら辺りを蝶、トンボ、甲虫を求めて走りまわっています。

この土地、リビア特に私の住んでいる地中海に面したミスラタ市辺りでは蝶は17種類、トンボ8種類、セミは2種類、水生昆虫タガメ、ゲンゴロウもいます。多分近くのタメ池に発生しているのでしょう。甲虫ではスカラベ(40mmぐ

らい)、小さなダイコクコガネ(15mm)、センチコガネ、小さな角なしカブトムシ(30mm)とか。この土地はカタツムリが多く日本で言うマイマイカブリとかオサムシの様な甲虫が種類数は少ないのですが数は結構多いです。私自身は蝶が好きな分野ですがこの地は基本的には乾燥した砂漠地帯であり、たゞ地中海沿いにグリーンベルト地帯(幅約10km)が続いているだけです。蝶の種類も極端に少ない様です。又名前の不明なものも多いのですがツマキチョウの一種とか、ベニモンキチョウ及びコヒョウモンモドキの一種が珍しいと云えば珍しいです。知られているものではチョウセンシロチョウ、モンシロチョウ、キアゲハ。又少し離れた地には(1000km)ヤマキチョウ亜種もいます。さらに近くの島のマルタ島(飛行機で30分ほど)にはオオモンシロチョウが飛んでいます。

トンボでは大型のギンヤンマ亜種が数多くおり砂漠地帯とは思われません。このギンヤンマ亜種はシッポ全部がコバルトブルーでそれは美しい限りです。それともひとつ変わったトンボはウチワヤンマの一種がこの地にいる事です。たゞ身体の大きさは日本のシオカラトンボと同じくらいですが例のシッポにウチワがしっかりとついています。

それから私の仕事のアシスタントをしてきているフィリピン人が先日（去年の12月）ミンダナオ島に里帰りした時例の巨大なアトラスオオカブトムシ??（4本ツノ）を大小♂♀あわせて10匹ほど採って来てくれました。彼にきくと友人が夜にココナツの実にとんでくるのを木に登って採ってくれたとか。このリビアでの仕事が終了したら（今年の12月末の予定）ミンダナオ島にでもよって、生きているアトラスオオカブトムシをこの目で確かめたいものです。

それではつまらない事を長々と書きましたが許して下さい。短報方々御挨拶迄と思ひまして。

1992・2・17. リビアにて 伊藤時雄

## 県関係 学会誌・同好会誌・連絡誌

( X ・ 1991 — III ・ 1992 )

兵庫生物（兵庫県生物学会）

Vol. 10, No. 3 ( II ・ 1992 )

Crude（大阪昆虫同好会々誌）

No. 35 ( X ・ 1991 )

のせ（大阪昆虫同好会連絡誌）

Vol. 20, No. 8—13 ( Ⅷ—X II ・ 1991 )

兵庫陸水生物（兵庫陸水生物研究会）

No. 39・40 ( IX ・ 1991 )

Nature Kids (Nature Association)

05 ( X I ・ 1991 )

n/k通信 (Nature Association)

09 ( X I ・ 1991 )

自然とともに（兵庫県環境管理課）

No. 16 ( X I ・ 1991 ) . No. 17 ( II ・ 1992 )

混蟲ずかん（但馬むしの会連絡誌）

No. 31 ( X I ・ 1991 ) . No. 32 ( II ・ 1992 )